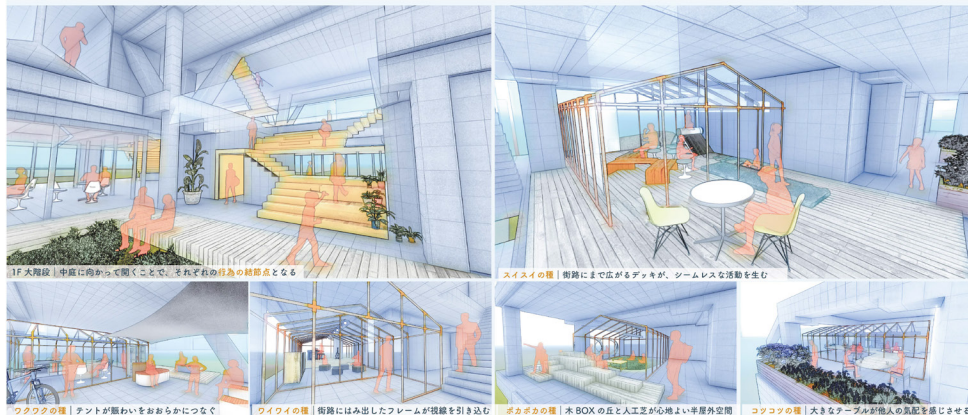


暮らしの種

オノマトペで再編集した行為の枠組みで
次世代の都市での交わり方を蒔く・育てる

20XX年
ICTやAI技術の発展に伴い、住宅に必要な機能が多くのクラウド上に置換された。それは同時に、住むための機能であった住宅の存在価値の低下につながる。しかし、大塚の天王寺区に実空間「元からこそ」の価値を共有し、新たな文化を形成し続けている集合住宅がある。NEXT21である。



01 背景 「住宅の機能が外部化することで失われるもの」

02 課題 「次の都市はもっと小さくしたい」

03 提案 「NEXTのNEXT=行為の「集積のせき方」を実現する」

04 方法 「オノマトペ」による行為の再編

05 住居例 「住民の行為を引き出すための種」を蒔く

このページは、01から05までの各セクションの概要と詳細な図解を掲載しています。01は背景として、住宅機能の外部化による課題を説明しています。02は課題として、都市の縮小と生活の質の向上を掲げています。03は提案として、NEXT21の5段階（1Fから5F）の計画を示しています。04は方法として、「オノマトペ」という行為の再編集手法を説明しています。05は住居例として、各フロア（1Fから6F）の具体的な空間設計とそこに蒔く「種」を説明しています。

06 拡張エリア 「地域の行為を基盤させるための種」を育てる

このページは、06の拡張エリアの概要と詳細な図解を掲載しています。06は、地域の行為を基盤として、さらなる拡張と発展を促すための種を蒔くことを目指しています。図解には、拡張エリアの平面図と、既存のNEXT21との関係性を示しています。

N00075

暮らしの種

藤野 正希(東北大学大学院)
志村 裕己(東北大学大学院)